



長野市議会 3 月定例会では「図書館」について質問しました。

○ 学校図書館について



質問-①)

「主体的・対話的で深い学び」には、自分でテーマを決めて情報を収集し、考え、まとめ、報告する「調べ学習」が欠かせません。この学習を支えるには、司書教諭や学校司書、学級・教科担任の連携が重要になります。学級・教科担任が立てた指導計画を基に、司書教諭と学校司書が、自校に資料があるか調べ、足りない資料を計画的に購入したり、公共図書館から借りたりして資料を揃えます。しかし、司書教諭は担任を持つなど多忙であり、学校司書は勤務時間が短いという課題があるのではないのでしょうか？また、調べ学習には百科事典、図鑑などが必要になりますが、必要な資料を購入する予算は足りているのでしょうか？

答弁)

司書教諭は担任などと兼務し専任配置ではないことから、学校司書が図書館の業務を担うことも多く、勤務時間が不足しているとの声が寄せられている。今後、多くの教職員が関わって学校司書の業務を支援して司書の負担軽減につながるよう指導していく。また、専任の司書教諭の配置について国や県に働きかけたいと考えている。図書購入費については学校数や学級数に応じて必要な図書を選定して購入できるよう毎年相応の額の予算を配分している。百科事典は高額なため学校間で貸し出しができるよう工夫している。新年度、一部だが予算を計上した。



質問-②)

文部科学省は公立小中高校全てで図書館に新聞を複数紙置くよう都道府県教育委員会に通知し、必要な財政措置を講じました。これは、選挙権年齢の18歳以上への引き下げや、令和4年度からの民法に規定する成年年齢の18歳への引き下げに伴い、児童生徒が発達段階に応じて現実社会の諸課題について多面的・多角的に考察し、公正に判断する主権者として必要な資質・能力を身に着けるための措置であり、目安とされる部数は1校当たり小学校2紙、中学校3紙、高校5紙とされています。

長野市の小中高校への新聞配備の計画と予算はどのようになっていますか？

答弁)

令和4年度当初予算に市立の全小中学校の学校図書館に子ども新聞を配備できる費用を計上した。市立高校にはこれまで通り(4紙)配備できる費用を計上した。計画期間内に目標配備数を達成できるようにしていく。

「本を読んで感動した。元気になった。自分以外のことを知り、世界が広がった。」
「このように本は多くの人に豊かな内面と生きる力を与えます。」



特に子どもの成長・発達には大きな栄養となります。また、「読む力」は「学ぶ力」の基礎となります。本を読むことで「読解力」が養われ、「考える力」「書く力」「人に伝える力」が付いていきます。学校図書館は、家庭の経済力や地域格差など、子どもの置かれた状況に関係なくすべての子どもに公平に、本に触れあえる機会をもたらし、「学び」と「育ち」を支えています。

新学習指導要領では、学校教育を知識注入型から「主体的・対話的で深い学び」に転換する方向が示され、文部科学省は「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童生徒の主体的・対話的な学びの実現に向けた授業改善に生かす」として、必要な財政措置を行っています。